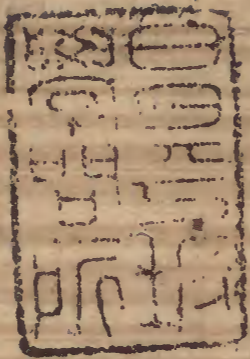


神皇正統紀

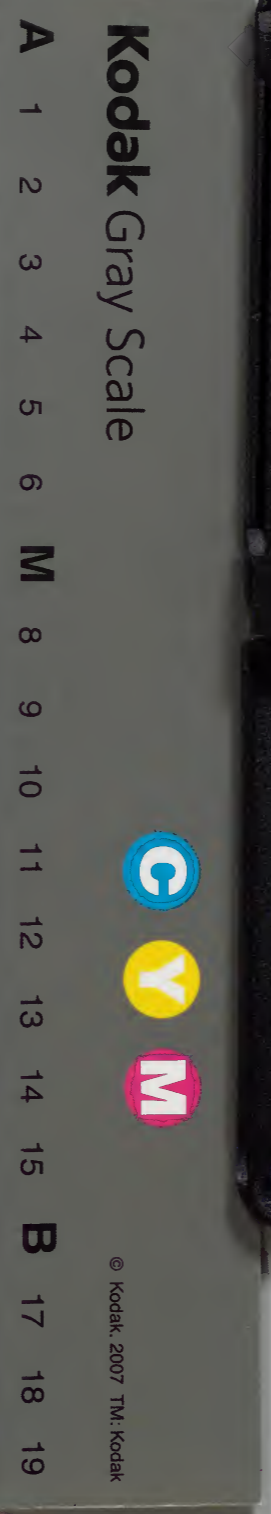
卷之四



三	三	和
八	一	
函	〇	
	二	書
五	六	
架	冊	類

(四册)

内閣文庫	
番號	和 23102
冊數	6 (4)
函號	138 80



神皇正統記卷之四目錄



第五十一

第五十二

第五十三

第五十四

第五十五

第五十六

第五十七

第五十八

第五十九

第六十

神皇正統記卷四

平城

嵯峨

淳和

仁明

文德

清和

陽成

光孝

宇多

醍醐



淺草文庫



天皇御宇一々弘法大師の御子なりまは
 新皇と申す是なり葉子仲成は獲はぬ一ぬ
 上皇又十一葉まはくあまのりく
 第廿二代才二千九世詔詠る皇は桓武第二孔子
 平城同母は身なり大才なりまはくへり己世
 と即位庚寅なり改元此ら皇幼年より聰明小
 ちく續出るとの諸蕪とてなりひ終又徳讓の大
 度とまはくくたり桓武の帝鍾愛云双の御子あり
 ちんわり言ふ徳君は后終ひ言はれと父は帝徳成
 のためなり願命もあにし格成ると此済とて

ありえりひ終りては又ぬく佛はまあがぬ
 世なり義徳の國神野と云ふるにたぐと此徳あり
 ちり攝太后孔先世なり終へり給はし一ちるは
 感しとおきた再延あるとて神野とて
 ありて自然なるかるとり傳教弘法又大師唐
 ちり徳くおひ一天台真言の御宗と此神代より
 子孫の徳まるはなり言れ此神代より人なりおえ
 世に傳教入唐の帝は山に到りてはく徳行
 ちり終り今乃根中堂に地をひりて言ふ
 ハの舌の錦とて人おく唐までとてなり天

唐の台割刺史陸

縵之下記の文ありて

國り之を待りて

そり弘法を母懐胎の

て宿海をりて

日り誕生此日唐の天曆九年六月十五日

まり不空三藏を依りて

且て惠果和尚れ告りて

誓く密教を弘めんと

ありて或る五年の

ありて唐の主順宗皇帝

弘の亦は惠果を去る

人乃附法あり紐南の

聖の惠日訶陵に辨弘

海に義明を唐朝に

をりて

瓶をり

をりて

果の亦子義操法洞

をりて

をりて

なりびびり東大寺不ありは相々興福寺にあり
 唐の古特ニ元天竺より他々々々園は秋洛め
 日本乃宣惠和尚大藏署のめ園はけり言持は
 之より一々帰朝のは世にやと世にのは相々
 と防僧正と云人入唐ト酒列の智周大師ト三
 神ト此文此ふと擁護ト云々ト此三宗
 多台証々々々々家の大業ト云俱舎成実ト云
 小宗より道慈律師トなるト云々ト云布せ
 依学の宗と別りけり云々云々

事なり西國大乗純實の地たるもいふや小宗
 和尙系終トの修められ東大寺乃以下
 野の茶師寺筑紫乃觀音寺ト戒壇を立ト此戒
 寺もぬ者ハ僧籍トはけりぬるゆにあり
 申言トこのりくさるはけりぬるゆにあり
 寺々々々々南都の恩園上人亦章跡トあき
 戒師と云るト亦上人入京トては土律
 法を傳トてはけりぬるゆにあり律再興トなり
 宗入り入ト威儀を具トはけりぬるゆにあり

けくまなり侍る人ほむと大方のまかり侍る人おのひき
 まのせり根キハキくあやまら多く侍る人但君とてま
 いはまは字も大概たいぶなりめりて根キハキくはむん中
 を國も攘トウゴウ災サイれ御ミコたりりもなる人亦ナカも大士だいしもはるま
 と侍るありあ朝の神明しんめいととりりひ擁護ようごし
 教きやうありと一宗いちそうあり志しある人餘よ宗そうはしりて一宗いちそうなり
 大なるあやまるれり人乃根こん機き志しをくたす徳とくの教きやう
 ばもまおありいんやま信しんじり宗そうもすりありあ
 種しゆめりていまも志しくふる教きやうをとりらん根こんくさる
 罪業ざいごふもやあま此宗しそうあり根こんすまも人々ひと又またはなすま

是こゝはなりほむの善ぜんある人一是こゝみか今いまま一世いせいの値ち
 遇ぐりありと國くに乃なりるももなり備政びせいの人ともなりれ
 諸教しよきやうを捨すてて機きももくさるりて得とく益やく乃なりひはる
 らんやと根こんひひひきなきなり且かつ佛ぶつ教きやうりかむら
 儒道じゆたうの二教にきやうれありまはるの道みちいや一いっは義ぎなり
 根こんはり一いっ用ようはを登代とうだいとまなかり根こんもて男なん史しを
 縁えん綴ずいとはとゆくまのまを食く一人ひとりありまも
 うへまめ女子にょしの紡績かろひきをまらりてみ侍み侍るも衣き
 人ひととてもはるのなかりて残のこりしまも人
 倫りんの大本だほんなり天てんの時ときりもさかひ地の利りりて決けつり

代より用しれど識をたけし事なまはらけり
とるもとれあしつとて醫陰陽の道又さき國の
なり金石録竹の樂を定學れ一はひまら政を
はぶらり今を鑑れことくよむもつる言念れ
なりと風を梅一倍とるめ樂よむはさき
とくり一喜らり又聲十二律り終一治乱とわ
あまも奥妻をさるる道とくそんたき又詩賦
哥詠の風も今れ人乃このじ不詩學れ本と終や
とる事と一とすわらるるとくよろのさき業とれる
末の世たさき人な感せしむるみららり是をさる

世の弊を止め邪と相せぐ教へかざるべし
まづの心は海をあらめ正りくくる術なう人務
く務とあらりく齊の桓公となし一は子の三ははく
つとく唐乃太宗をけとく一はるたごいもあり
乃玉圍其石其のきりり事まもくもさ終らるる
おさめらるく一はるわらひも先んがたあなり但
原りをもとけらるると一はるさるるさるる
孔子も飽まもくくく一はる終日心を用ふ
のりも博奕とくさるるもはるありま一はる
うも一はるもとくさるる人あさあはるあはる

けり新志ありは是よりあやむかるる也部のはり
 おもくもあまのりん一氣一なりきふはあ五六は
 よもくと相剋お生むべしと自らもはれと他もこと
 らしめんゆりあゆの道も理一のなるべし此神門は
 顕密のよま宗よりぬしけひしものもこと儒学も
 あまのりん文章もきくべし書藝もすくもこと
 宮城の東西の影も清みなりと出しめけひし
 下と治めぬゆり十年皇太子にゆけり
 太上天皇とや帝部西渡縁もきなり部宮を
 志んくともゆりしきり一旦國をゆけりあひし

のまがうすす行末もさばあまのりん御公
 ざりしや新帝の子桓世親王と太わりのまはひ
 志を親王又くく解退しし世はうじあけひあ
 ゆしそあまがく言事上白皇極く徳讓し
 あまふ親王又くこのまはひくま代まきくは義談
 もあむり仁徳兄あお譲けひしはまもやあま
 志のなかりあみ十七果はまのりしき

第五十三代淳和天皇西院の帝ことやと桓義
 三の子御母を贈白皇太后友原は皇子贈太政大臣百
 川乃女がりの癸卯元年即位甲辰年改元三下

中と仁明才一の子弟母々太皇太后仁藤原乃順子
不象の左大臣冬嗣乃母乃の庚午の年即位幸来
右のキ段元三下と治め給ふゆ八年三十三果おしき
 第五十六代清和天皇諱と惟仁水尾の帝一とを中
 文徳才四孔子弟母は皇太后藤原乃明子後方の右
 政大臣良房の母乃の朝を幼ら位り右給ふ
 こと備せたりあり此と皇九果より一而位成寅乃
 年一乃る己卯又段元踐祚あり一は外祖良房の
 大臣より先とと授政せし右授政と云ゆゆはあり
 とも唐堯の時虞舜と登用之政をまゝせたりひびと

是は授政といふより二十年あつて正位をさけり
 是の殿の代り伴尹と云ふを信あり湯乃ひ大甲城
 備佐と是と保衡といふ所衡を心と授政なり國の
 世り周公且又大をまゝり又文王れ子武王の才成王
 の叔父なり武王の代り三公にははらり成王わ
 くら位り信ありはは國公の南面
 一授政と成王とあつて面せし事漢の昭帝又幼らて
 即位武帝乃遺詔より博陸侯霍光といふ大
 大司馬大將軍より授政と申しよと周公霍成とを
 先取るとやめ侍奉朝とて意神ひまき給ひく

ふかきまの非人う失傳るふは事ごと一門のさくし
海こそより新儀よあくきうとふはんこきり大なる此大
臣を記をもつけりけりしきうにけりし子孫親族の字
回をもくうんだめふ初学院と建立とて大學寮あり東の
曹司ありと菅江の二家は城はくさるとり人とな
する所なりは大學乃高に此院と立く事し一く南曹
しう中なる氏長者なる人し孫と此院を管領
て豊福寺及び氏社とを祀おさるは良房乃
大は授政せりけりしよりは一途りけりしとて終ぬ
事にたりあり幼少れぬらうりかとおぼえしと

授政實向と云ふまじうて職なりぬをのぼりて授政と
きん及ばぬありは時と肉體は後をすまじし事と授政の
美うりふりなり天皇御もあひはひの事は授政まつり
おと成るし一なりとて太政大臣とて白河に閑居せり
しよりりたるお孫りしまじとてお孫も授政をせりし
せりまじとてありし人ありは海にやゆきやう退還の
つあへ閑適をこのまじとて常に朝参するもせりまじ
たりしよりは太納言伴善男とて入寮ありしとて大臣と
とむむとてありしとてありし時より三公閑なりあり
太政大臣良房を大臣信
右大臣良相
信の左大臣と失るひくしとて閑よのそん

仁徳天皇とあひまゝに先應天門を焼く。むす大匠世を
みまんとあひまゝに先應天門を焼く。むす大匠世を
ろのあひまゝに先應天門を焼く。むす大匠世を
すまゝに先應天門を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を
むす大匠世を焼く。むす大匠世を

と中を在位の帝は星御代に於てカウカウの御代に
ぬもやむ。隋炀帝の晋書とつひ。時天台の智者
は受戒。總持とてつひに御代に於てカウカウの御代に
君は例なき。智者の御代に於てカウカウの御代に
南雲山石塔あり。つひに御代に於てカウカウの御代に
勅使をばつひに御代に於てカウカウの御代に
て新宮をばつひに御代に於てカウカウの御代に
る皇天下を治め給ふ。十八年太子を御代に於てカウカウの御代に
志り給ふ。新宮の中三とせ給ふ。御代に於てカウカウの御代に

才子に灌頂ありてせしむ丹波の水尾と云ふ人其の
しむらせ抄ひく縛りし海一志がすれかく事終
御年二十一歳たましく云

身正七代陽成天皇諱も貞明清和才一の子御

母皇太后右大臣高子二条の贈大臣長良女也

下向のし即位段元右大臣基治指政し大政

大臣り任し大臣良房の喜みなり実中納言忠仁公は故事

の事也此天皇性悪みく人の望りきくむみ

え終ひたまは授政なる者もめて廢立は事なちりごめ

は進んずりむじり漢乃霍光昭帝世也云々

終ひしは昌邑多城きく天子とし昌邑不徳あり

悪く事くし即廢立をばさむひく宣帝をちをきり

又霍光が大功とて志るし侍り侍るめ事此大臣ま

しし外戚の長きく政をさるしにせし事し天下

のむか大義を思ひくしむめおちるつれなるとめてし

ことばは家もと人しとおかききししし授政実

向々世大臣の末れくし終せぬ事しなるしは事侍

はあしく大臣大指りのりる藤原乃人も皆此大臣の

苗裔なり積善の能きなるしと我れり侍り侍

天皇より侍り侍りめたなりあゆ八年ゆきしりしけ

らまは八十て来まはくおまのりく

第五十八代才三十一世光孝天皇諱之時康小春此帝

ともや仁明孝二の子沛母は贈皇太后友子の澤

子贈太政大臣懿孫乃女あり陽成志をそけり

ひ一時授政昭宣公を終くの由皇子はお一中はま

言り此より皇一弟武部公常陸太守とやめり

沛年あうくして小松の宮り備しく事あるに依り

まうてつらん終ひ事きは人皇の黒皇御孫皇子ならふ

すく進まき事なるにまはく即儀求まこのく

中は事なり本位の服を急りなうく事興り

大肉入り入せ給ひる事今年申辰のとなり乙巳改元

踐祚のりめ授政をあらためり同白とひ是の

同白乃始なり漢北霍光授政なるり宣帝乃

時政をくして退る事る漢漢機の政行光り同白

さめよとありり事名をさくはは事なり

此天皇昭宣公のり事ありて立給ひり沛志も

授りりり事ありて殿上ありり元服せり

はははりり位記をあらためり正丑位下にたり

言りり事ありり終り事ありり芥川入法事あり

古より事ありり事ありり事ありり天下治め

二十二年乙未年... 天皇の世に... 神代より... 天照大神の御... 暦敷も久し... 冥助の心...
二十二年乙未年... 天皇の世に... 神代より... 天照大神の御... 暦敷も久し... 冥助の心...
二十二年乙未年... 天皇の世に... 神代より... 天照大神の御... 暦敷も久し... 冥助の心...

神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす...
神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす...
神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす... 神と美姫をす...

花より一々大神の中より安んじ名を敬とて仁和三年
丁未乃秋光孝御病ありし時先の子たちをお
あまの遊侍りし者も先親皇太子に立
即受禪同年の冬即位中一年ありし已而
改元踐祚乃ち始めより太政大臣基経又関白せり
此実白薨し後々世に傳へるる人なり天下に
め給ふり十年位を太子り由侍りし太上天皇
中延中一年ありしありし出家せし御孫小治年
三十三もやわらふと給ふりし者ありし作多
言う弘法大師の代の子益信を御師とて東

寺山一々灌頂せし御孫又智證大師の子増命
僧正時法橋ナリ比叡山に板橋云の観トくありし御孫弘法ニリガリの御孫
を家とせし御孫ひなを御法流とて今も
仁和寺に傳へしは是なりは弘法の御孫
廣澤仁智小野醍醐并二ありし廣澤カノエの御孫
寛空僧正寛光の御孫寛朝僧正敦実親王寛朝廣
澤法皇御孫の御孫は後代に御孫
お侍りし者も人々ありしは
代々小野乃流も益信乃お侍りし聖實僧正
智信智信の御孫は御法流と稱するは御孫

吾為の邦政あり言んとをりけり於存る菅氏乃
カ名入りよるもく大納言大將りて冬用一はひりも
此の時あり又徳園の時さへくをりて一はひりて寛永
の御戒とて君臣あふもくんそまつるもくも昔
き治ありよと天下の明德虞舜よりなりしまはる
んくきり唐堯乃もり并はひりまらるもく舜の徳
もあつて天下の道とあきつるに介らぬるもく二
代乃明徳とてもく此事ありたるもく一はひり
とて朱荏院乃御代りおかくもく一はひり
七十の年おとす

第六十代才二十二世醍醐天皇諱々敦仁字多才一の
子御母は贈皇太后藤原の胤子内大臣高成の女也
丁巳の年即位戊午年一政元大納言左大臣藤原時
平大納言右大臣菅原公人上皇乃勅びり言ふ
捕法一はひりてはよした右の大臣一はひりて
系機を内院せしむるもく一はひりて
位入りつきたまふもく一はひりて
哲少きもく一はひりて大臣もく一はひりて
右相もく一はひりて下の政をせしむるもく
左おの御代の黒なり言ふはすくもく一はひりて
或時

世終ひく武周乃大信誠謙せし人なり交り事な
 下々ののきくありあり此君久しん意に
 たりんか神とて今よのる
 まろく靈驗云双なり末世の益を施さんためなりや
 終んといふ事大信をばなりぬ回のあり事
 たどひも皆神靈誠なり此君久しん世
 ちまもせ終ひく徳政と好むおのせ終なり
 上代りさく事あり天下泰平民間安穏なり此
 仁徳のゆる事終ももかす事異域荒蕪の
 こま道ももくくの中延喜七年丁卯計なり

唐滅く梁とて國ありしなり
 唐後唐晋漢周とて又代ありき此大皇
 こ下と治め終なり三十二年四十三年
 第六十一代朱崔天白皇諱と寛明醍醐十一の子母
 皇太后及原れ終子開白太政大臣基經乃女なり
 所見保明乃太子 諡と文亮 早世そ神子慶彰太子
 亦ほごあかく事なりし保明一版のちありたる
 たろ小庚寅の年即位辛卯不政元外神皇左大臣
 忠平 昭宣公乃一男 攝政せし事寛平
 下はもも延喜神一代すく攝關なりなり此皇又

来り実朝の右大臣

善大将是八貞隆の
親王の苗裔なり

陽成乃清子なり姓

を給る人三人光孝のちなり姓を給る人十一人宇多の

御孫を姓を給りて大臣又のりる人雅信は左大臣を信

の左大臣

親王の苗裔なり

醍醐

のちなり姓を給りて人二十人

臣は乃りる人宇多のちなり大臣又のりる人

中務卿なり

皇孫を給る人宇多のちなり大臣又のりる人

皇孫を給る人宇多のちなり大臣又のりる人

皇孫を給る人宇多のちなり大臣又のりる人

右大臣

善大の補仁の親王は男白河院の
御孫なり

二世は源氏より大臣

つがかりかやうにさしく大臣又のりる人

二代とあひはさるはさむで納言なりよましく傳りて家

おの孫より雅信の大臣は末をよのけうう納言

との御孫より給りてはさるは大臣乃は四代大臣をよ

く有るももやしく給りてはさるは大臣乃は四代大臣をよ

同く是より皇胤乃を給りてはさるは大臣乃は四代大臣をよ

おの孫より雅信の大臣は末をよのけうう納言

もや大臣は礼なりを給りてはさるは大臣乃は四代大臣をよ

りてはさるは大臣乃は四代大臣をよ

流いするにさる皇胤者はよに他なりとさるは大臣乃は四代大臣をよ

事なりとさるは大臣乃は四代大臣をよ

即位成衣行改元世天聖朝元初の海川を事
 而位の時大極殿より出給ふりて比を名をさし給ふり
 而を名をりもや紫宸殿よりくまら礼ありて又二年より
 志はく讓國六十三家村を以てまゝ其地所内より天皇
 の居たりて又其より後謚をさし給ふりて遷居あり
 而く國忘山陵と稱し遷居ありて君父の御心
 為す事をもて名をさし給ふりて其より後子世義あり
 らしむ神代心來り乃神号とみち後代の所はく先あり
 持統元明よりこのより遷位或は出給ふりて謚を
 而くはつて天皇と稱し其より後神代心來り乃神号とみち
 而くはつて天皇と稱し其より後神代心來り乃神号とみち

なまてりしものをいふ事一り侍り也

○第六十四代才三十五番國融院諱を守平村上才五
 の御子冷泉院同母の才なり己巳の年即位庚午段
 元より下治ありて才五十年禪讓を名はひての事也
 聖年の御心はや齊出家永延乃の御實平村御心
 村のく來寺ありて灌頂せりて乃御心齊師と稱し
 而く實平乃法孫才子寛朝僧と稱し其より三十三
 代より

第六十五代花山院諱を師貞冷泉才一乃御子
 而く母の白皇右女京の懷子持政太政大臣侍中才女あり

○第六十七代三条院諱と居貞冷泉の二の子河母は
皇太后友房の越子是と攝政兼家乃女より花園院
世のつぎは太子より立ぬいりて河母は
のゆへもあかりくは同乃くはるなりて幸内
乃年即位王子より政元天下は治め給ふや又年
号ありき定十二年あまのくま

○第六十八代後一条院諱と敦成一条の二の子河母は
皇太后藤原の彰子（はよ上東門内）攝政道長の大臣おしはめや
丙辰のより即位丁巳より政元外祖なるも乃大臣攝政
せしきりて攝政女は嫡子頼通の内大臣なり

おんせりてゆばり頼太政大臣にく天皇帝元服乃由
加冠理髮父子なるむく勅仕きりてめはし
るはゆりて冷泉園融乃は流らるるもせ給ひ
よ三条院より行ひてはきりて敦明のち子太子なりぬ
給ひりてゆばり院号かありて小一条院と申す
あまのり冷泉の御なりてはきりて冷泉の御元
てはしきりて統とて申すなりてはきりて天曆は
時元方の民部はりしとめはは皇孫一のみは廣平親王は
なりて九条殿の女御より給ひりて乃二乃白皇子冷泉より
いづれは給ひりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりて

若國公みまきり一書事六源お義り作く追討せしむ

お義隆奥の守に仰じ徳を府れお軍を遣ははたお徳守お軍。十二年

てかろん志のめ侍り言くけ君の御子まの南を侍りし

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

後朱荏の送治めく後之系お高り各のへり

